

「ていただく」の機能

— 尊敬語との互換性に着目して —*

上原 由美子

神田外語大学

授受補助動詞の一つである「ていただく」は、それ自身は謙讓語であるが、相手を上に自分を下に位置づける関係において相手の行為を表すという点で、尊敬語と共通する機能を持つ。本稿では、益岡(2001)による「てもらう」の二分類に基づき「ていただく」を相手に対する働きかけの有無によって二分類し、その意味上の二分類が「ていただく」においては尊敬語との互換性の有無という性質の違いとして表れることを示す。すなわち、相手に対する働きかけのない「受動型ていただく」は尊敬語との交換が可能(尊敬語での表現も可能)であるが、指示や依頼など相手に対する働きかけのある、つまり相手への負担の大きい「使役型ていただく」は尊敬語との交換がほぼ不可能である。最後に、こうした「ていただく」の振る舞いは、対人上の配慮に関する語用論的な制約に従っていることを示す。

1. はじめに

「てもらう」「てくれる」「てやる」およびその待遇的バリエーションである「ていただく」「てくださる」「てあげる」「てさしあげる」という授受補助動詞は、恩恵のやりとりを表すという点において、対人的な配慮に関わる待遇表現として重要な機能を果たしている。(宮地 1965、川村 1991、熊井 1991、金久保 1993、橋元 2001 など)。本稿では、これらの形

* 本稿の執筆にあたり、長谷川信子先生に有益な助言を頂いた。また神田外語大学言語科学研究センター研究発表会(2007.1.13)において、井上優先生に重要な指摘を頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。

式のうち「ていただく」について、これが相手を上に自分を下に位置づける関係において相手の行為を表すという点で尊敬語と共通する機能を持つことに注目し、主に尊敬語との比較を通してその機能を考察する。「ていただく」は、「てもらおう」の謙譲語の形式であることから、従来の研究では依頼文（「～ていただけますか」など）を除いては特別な考察の対象として扱われることはほとんどなかったと思われる。本稿では「ていただく」を直接の考察対象とすることにより、「てもらおう」のバリエーションとして扱われている時には見えにくかった「ていただく」の機能を明らかにしたい。¹

「ていただく」が尊敬語と共通する機能を持つのは、次のような場合である。

(1) (客が故障した携帯電話を修理に出したとき、店員が客に聞く)

- a. こちらの携帯電話はどのぐらい使っていただいていますか。/お使い（になって）いただいていますか。
- b. こちらの携帯電話はどのぐらい使っていらっしゃいますか。/お使いになっていらっしゃいますか。

「携帯電話を使う」という相手（客）の行為について、(1)aでは「(て)いただく」が使われており、(1)bでは「(て)いただく」はなく、尊敬語だけが使われている。((1)aの「お使いいただけます」のような形式は厳密には「ていただく」ではなく「いただく」だが、以下「ていただく」で代表させる。²)

¹ 本稿で扱う「ていただく」の性質には「てもらおう」と共通する部分と共通しない部分があり、また共通の性質を持つ場合も、用法によって両者の使用頻度が異なる場合がある。「ていただく」の性質を考えるにあたり、「てもらおう」の性質との異同は重要な問題であるが、これについては本稿では扱わず稿を改めて考察したい。

² 「お使いいただく」の形式は「お使いになっていただく」の「になって」の部分が省略された形式と考えられる。このような「になる」の省略は「お使いになっている」が「お

ニュアンスの違いはあるが、この場面において、(1)a と (1)b は両方とも使用可能である。しかし、「ていただく」を伴う形式が常に尊敬語だけの形式に置き換えられるわけではない。(2)ab を見られたい。

(2) (ラジオで、音楽が一曲終わったあとのアナウンサーの言葉)

a. バッハの「小フーガト短調」を聞いていただきました。
。/お聞き (になって) いただきました。

b. # バッハの「小フーガト短調」をお聞きになりました。

(2)において「聞く」のは相手(視聴者)の行為であるが、(2)a はラジオ局が視聴者に提供した内容を紹介する機能を持つのに対し、(2)bはこの機能を持たない。つまり、(2)bはこの場面では使用できず、(2)aは(2)bに置き換えることができない。

このように、「ていただく」は、相手の行為を表すという点で尊敬語と共通する機能を持つが、尊敬語だけの形式に置き換えられる場合と置き換えられない場合がある。本稿では、このような「ていただく」と尊敬語の互換性に注目し、それを通して「ていただく」の機能を考察する。

なお、本稿の目的は「ていただく」の機能を明らかにすることであるため、厳密には「ていただく」を伴う形式」と「尊敬語だけの形式」を対立するものとみなす。例えば「お使い (になって) いただく」と「使っていていただく」は共に「ていただく」を伴う形式」として同じとみなし、これらの間の違いについては扱わない。なお、これらと対立する「尊敬語だけの形式」は「お使いになる」又は「使われる」である。³

考察にあたっては、後述するように、益岡(2001)が、相

使いだ」となる現象と共通する(長谷川信子先生のコメントによる)。

³ 尊敬語には、「お～になる」形式、「～られる」形式、および「召し上がる」などの特殊な形式があるが、それらの違いについては本稿では問題にしない。

手に対する働きかけの有無によって「てもらう」を二分類した方法を援用する。

また、本稿の考察対象は、店における店員と客の会話、あるいは会社の営業担当者と得意先の会話、商業用ポスターやパンフレットなどの印刷物、テレビ・ラジオにおける視聴者に対する発話の場面などとする（以下「接客場面」と呼ぶ）。それは、接客場面、特に売り手側による客に対する発話においては「ていただく」が頻繁に使われており、用例が豊富なことから、いろいろなタイプの「ていただく」が観察できるからである。接客場面とそれ以外の場面では、「ていただく」の使われ方や頻度に違いはあるが、この違いについては本稿では扱わない。また、接客場面の中には、近所の商店街などで客と売り手が顔見知りである場合や、生鮮品店等におけるカジュアルな接客場面もあるが（「今日はさんま安いよ。買ってって！」など）、本稿では、売り手が客の行為について尊敬語や「ていただく」を使うようなフォーマルな接客場面における例を考察対象とする。

以下、第2節では授受補助動詞および「てもらう」「ていただく」に関する先行研究について概観し、第3節では本稿の考察に用いる益岡(2001)の「てもらう」の分類（「受動型てもらう」と「使役型てもらう」）を提示し、第4節、第5節でそれぞれ、益岡(2001)に基づいて「ていただく」を分類した「受動型ていただく」と「使役型ていただく」の例を考察する。第6節はまとめである。

2. 先行研究

授受補助動詞全体についての先行研究としては、大江(1975)、久野(1978)、高見・加藤(2003)、山田(2004)をはじめ構文や意味に関するものが多くあり、また、授受補助動詞が恩恵のやりとりを表すという点から、その待遇表現として

の機能を扱っている研究も宮地（1965）、川村（1991）、金久保（1993）、橋元（2001）、守屋（2002）、山本（2003）など多数ある。本稿では「てもらう」ではなく「ていただく」を直接の考察対象とするが、多くの先行研究において「ていただく」は「てもらう」の待遇的バリエーションとして一緒に考察されており、また多くの部分の性質は共通であることから、「てもらう」についての先行研究を「ていただく」の分析の参考にする。「てもらう」についての研究は、文法的な観点からは、受動文や使役文との対比などヴォイス的機能や「働きかけ性」の有無に着目した研究（Masuoka（1981）、奥津・徐（1982）、仁田（1991）、高見（2000）、益岡（2001）など）や、「てくれる」との対比についての研究（堀口（1987）など）などがあるが、筆者の知る限り「ていただく」と尊敬語の互換性や使い分けを扱った研究はない。これは、依頼表現（「～ていただけますか」等）を除けば、通常「ていただく」は「てもらう」の待遇的バリエーションとして一緒に考察され、独自に扱われることがないことと関係があると思われる。しかし一方で、話者側の行為を表す「させていただく」については、最近特にその過剰な使用が議論され、いわゆる謙譲語（「いたす」等）との使い分けに関する研究（菊地（1997）など）もある。相手の行為を表す「ていただく」と尊敬語の関係は、話者の行為を表す「させていただく」と謙譲語の関係と表裏をなすものとも考えられ、その意味でも、この表現を考察する意義は大きいと考える。

以上を踏まえ、本稿では、授受補助動詞の中からこれまで個別の対象として研究されてこなかった「ていただく」を取り上げ、主に尊敬語の機能と比較しながら考察する。考察にあたっては、次節で提示する益岡（2001）による、「てもらう」を二種類に分類する考え方を援用し、「ていただく」にも二種類あり、その一方のみが尊敬語の機能を持つことを示す。

3. 「受動型てもらおう」と「使役型てもらおう」: 益岡 (2001)

「てもらおう」が、相手に対する働きかけの有無によって、二種類または三種類に分類できるということはよく指摘されているが (Masuoka (1981)、奥津・徐 (1982)、仁田 (1991)、益岡 (2001)、山田 (2004) など)、本稿では益岡 (2001) による「受動型てもらおう」と「使役型てもらおう」の二種類に大別できるという分析に基づいて、「ていただく」を同様に「受動型ていただく」と「使役型ていただく」の二種類に分類して考察する。以下、益岡 (2001) による「てもらおう」の二分類を示す。

益岡 (2001) の分類によれば、「受動型てもらおう」構文とは、(3) のように相手から一方的に動作を受けるものであり、「使役型てもらおう」構文とは (4) のように、相手に対する働きかけが認められるものである。

(3) 先生に作文をほめてもらった。 (益岡 2001: 29)

(4) 花子に (頼んで) 代わりに行ってもらった。(益岡 2001: 29)

さらに、益岡 (2001) は構文間のネットワークと役割分担という観点から、「受動型てもらおう」構文 ((3)) を受動構文 ((5)) と、「使役型てもらおう」構文 ((4)) を使役構文 ((6)) とそれぞれ対比させる。

(5) 先生に作文をけなされた。 (益岡 2001: 29)

(6) 花子に代わりに行かせた。 (益岡 2001: 29)

「受動型てもらおう」構文 ((3)) と受動構文 ((5)) は、当該の事態が好ましいかどうか、つまり、恩恵的か迷惑的かという対立を構成するという。すなわち、「受動型てもらおう」構文 ((3)) はその事態が恩恵的であるということを表し、受動構文 ((5)) はその事態が迷惑的であることを表すとしている。これに対し、「使役型てもらおう」構文 ((4)) と使役構文 ((6)) は主として

強制性の有無において対立するとしている。つまり、両者はともに相手に対する働きかけを表すが、「使役型てもらおう」構文((4))は強制性がなく、使役構文((6))は強制性があるということである。さらに、授受補助動詞構文は、一般に恩恵性(受益性)を表すが、「使役型てもらおう」構文((4))については、「受動型てもらおう」構文((3))と異なり、恩恵性を強く帯びることはないとしている。

益岡(2001)は、さらに、「使役型てもらおう」の例として(7)を挙げ、(7)のような例では使役構文(8)が同じコンテキストでは使用できず、使役構文との対立性が弱まり、使役構文の肩代わりをしていると見てよいとしている。⁴

(7) 今すぐ東京に出張してもらおうよ。(益岡 2001: 29)

(8) # 今すぐ東京に出張させるよ。(益岡 2001: 29)

以上が益岡(2001)の「受動型てもらおう」と「使役型てもらおう」の分類の概要である。

次節以降では、この益岡(2001)の分類に基づいて、本稿の考察対象である「ていただく」を、相手から一方的に動作を受けるものと、相手に対する働きかけが認められるものに分類し、それぞれ「受動型ていただく」「使役型ていただく」と名づけ、それぞれの機能、および尊敬語だけの形式との互換性について考察する。

4. 「受動型ていただく」

本節では、相手から一方的に動作を受ける、「受動型ていた

⁴ (7)(8)の例は、このようなビジネスの場面等では、相手に対し、働きかけを直接言い渡す場合は使役形が使えずに「てもらおう」を使うことになるということを表しているものと思われる。この用法は、例えば運動部の監督が部員に対して「遅刻したら、グラウンド10周走らせるぞ」と言う場合など、強制力のある関係においては用いられることもあるといえる。なお、この相手に直接働きかける「てもらおう」の機能は、第5節で見る「使役型ていただく」の例によく見られる。

だく」の例を見る。「受動型ていただく」は、「受動型てもらおう」同様、相手に対して依頼や指示など使役的な働きかけはない。(9)と(10)は「受動型ていただく」の例であり、(9)(10)とも、話者(売り手)が相手(客)に行為を働きかけるという意味はない。⁵

(9) (客が故障した携帯電話を修理に出したとき、店員が客に聞く) こちらの携帯電話はどのぐらいお使いいただいていますか。

(10) (テレビショッピングで、司会者が、紹介商品であるスキンケア商品を使っている客を紹介する) こちらは、私どもの商品を5年間ご利用いただいているとおっしゃる××さんです。きれいなお肌ですね。

益岡(2001)は、「受動型てもらおう」構文と受動構文は恩恵性の有無により対立しており、「受動型てもらおう」構文は恩恵性を表しているとしているが、「ていただく」の場合でも、(9)(10)とも、相手(客)の行為は話者(売り手)の商品を使うこと、つまり、話者の商売上の利益に繋がる行為であり、話者にとって恩恵性があると言える。

一方、話者(売り手)が相手(客)の行為により恩恵を受けない(11)(12)のような場合は、相手の行為は「ていただく」を伴う形式ではなく尊敬語だけの形式で表される。

(11) (店員と得意客の正月休暇についての雑談の中で、店員が客に言う) ××様はお正月は毎年ハワイで過ごされているそうですね。

⁵ 本稿の例文は、説明があるもの以外は、筆者が日常生活やテレビ、ラジオ等から採取したものである。

(12) (テレビショッピングにおいて、商品紹介者がパソコンを売る際の宣伝トークにおいて) 最近は、みなさんデジカメで写真をお撮りになりますよね。

(11)を「ていただく」を伴う形式に変えると(13)になるが、これは話者が旅行会社の社員やハワイのホテルの関係者である場合など、相手(客)が正月をハワイで過ごすことにより恩恵を受けるような場合を除き、使われない。(12)を「ていただく」を伴う形式に変えた(14)もこの場面では使われない。これは、相手(視聴者=客)が「デジカメで写真を撮ること」は、間接的にはパソコンの売上に影響するかもしれないが、話者(パソコンの売り手)が直接恩恵を受けているわけではないためと考えられる。

(13) # ××様はお正月は毎年ハワイでお過ごしいただいているそうですね。(cf.(11))

(14) # 最近は、みなさんデジカメで写真をお撮りいただきますよね。(cf.(12))

以上見てきたように、「受動型ていただく」では、話者が恩恵を受けないような相手の行為については、「ていただく」を伴う形式は使えず、尊敬語だけの形式を使う。⁶

さて、少し戻るが、(9)(10)の「受動型ていただく」の例は、以下に見るように、尊敬語だけの形式に入れ替えても同じ場面で使用できる。(15)は(9)を、(16)は(10)をそれぞれ尊敬語だけの形式に変えたものである。

⁶ 売り手が客の行為により恩恵を受けず逆に損をするような場合でも、当該商売に直接関係ある事柄については、「ていただく」を伴う形式(「ご返品いただく」「別のサイズにご交換いただく」「ご解約いただく」など)が、(13)(14)のような当該商売と全く無関係な場合よりも若干自然に聞こえるかもしれないが、今のところ、脚注8で述べるような可能形(「ご返品いただけます」等)を除いては実例が確認できてない。このような、話し手が損をするような場合にも「ていただく」が使われることがあるかどうかは今後の調査の課題にしたい。

- (15) こちらの携帯電話はどのくらいお使いになっ
ていらっしゃいますか。(cf.(9))
- (16) こちらは、私どもの商品を5年間利用していらっ
しゃるとおっしゃる××さんです。きれいなお肌です
ね。(cf.(10))

(15)(16)では、「いただく」は使っていないが、尊敬語を使う
ことで客を上位置づける配慮が表現されており、ニュア
ンスの違いはあるが、同じ場面でまったく自然に使うことが
できる。

以上見てきたように、「受動型いただく」は、相手の行為
が話者にとって恩恵性がある場合のみ使われ、また、尊敬語
だけの形式に置き換えることができる。⁷ただし、計量的には
未調査ではあるが、現在までの観察では、「ていただく」を伴
う形式と尊敬語だけの形式が両方使用可能な場面では、
(15)(16)のような尊敬語だけの形式よりも、(9)(10)のよう
な「ていただく」を伴う形式を使うことがかなり多いよう
である。^{8,9}

⁷ 「～ていただきまして、ありがとうございます」は、尊敬語だけの形式に置き換えら
れないが（「*～になりまして、ありがとうございます」）、これは「ありがとう（ご
ざいます）」に繋がる動詞句は、「てくれて」「てくださり」「ていただいて」「てい
ただき」など授受補助動詞句に限られるためである。

⁸ 「ていただく」と尊敬語だけの形式のどちらでも使用可能な場面で「ていただく」の
の方がよく使われる傾向は、特に可能形の場合に顕著に現れている（「～になれます」より
も「～ていただけます」がよく使われる）が、これに関しては、蒲谷・川口・坂本（1998）
が「どなたでもお気軽にご参加になれます」と「どなたでもお気軽にご参加いただけ
ます」を比較し、「ご参加になれます」は、「相手」が「参加できる」という「可能」
の表現を用いること自体があまり適切ではなく、それに対して「ご参加いただける」は、
「（われわれが）参加してもらえる（だから、ありがたい）」という気持ちを表すとい
う点で、言い換えれば、「利益・恩恵」を受けるのは「相手」ではなく、「自分」であ
ることを表そうとする点で、「敬語表現」としてはより適切なものになっている
（p.182）」と述べている。なお、可能形の場合、話者が恩恵を受けないような相手の行
為についても「～ていただけます」がよく使われている（「2週間以内であればご返品
いただけます/ご解約いただけます」等）。

⁹ 宮地（1985：269）などが指摘するように、敬語の質が変化し、敬語が相手への尊敬を
表す表現から、その場その場での相手との立場を踏まえた礼儀を示す表現へと変わりつ

5. 「使役型ていただく」

本節では、相手に対する働きかけがある「使役型ていただく」について考察する。

接客場面で「使役型ていただく」の例を探すと、主に依頼や指示など、話者（売り手）が相手（客）にある行為をするよう、あるいはしないよう働きかける例が多い。以下、いくつかのタイプの「使役型ていただく」の例を見ていく。まず、(17)(18)は、相手の行為を指示する「使役型ていただく」の例である。

(17) (グループ旅行の添乗員がツアー客に翌日の行動を指示する) 明日の朝は、8時にロビーに集合していただきます。

(18) (レストランの入り口の張り紙) ペットをお連れのお客様にはご入店をご遠慮いただいております。

これらは、第3節で見た、益岡(2001)が「「使役型てもらう」の中でも使役構文が使用できず、使役構文との対立性が弱まり、使役構文の肩代わりをしていると見てよい」(p.29)と述べているような(19)=(7)の「てもらう」の例に近いものである。

(19) =(7) 今すぐ東京に出張してもらおうよ。(益岡 2001:29)

以下で見ていくように「使役型ていただく」は「受動型ていただく」とは異なり、当該場面において尊敬語だけの形式に置き換えることができないか、またはかなり不自然な表現になる。上の(17)(18)を尊敬語だけの形式に変えたのが(20)(21)であるが、いずれも(17)(18)と同じ場面で使うことはできない。

つあることにともなって、授受表現が多用されるようになった、という通時的な変化もあるものと思われる。この記述は少なくとも「させていただく」の多用という事実にはあてはまり、本校の考察対象の「ていただく」にも通じると思われる。

(20) # 明日の朝は、8時にロビーに集合なさいます。

(cf.(17))

(21) # ペットをお連れのお客様はご入店をご遠慮なさいます。(cf.(18))

(20)と(21)が言えない理由として、文の意味上の主語の問題とも考えられるかもしれない。つまり、(17)(18)の「ていただく」の文では、話者(売り手)が意味上の主語になることから、言い切りの形で主語の意志を表すことができ、指示の機能を表すことができるが、(20)(21)の尊敬語だけの文では意味上の主語は相手(客)であるため、指示の機能を果たすことができないとも考えられる。しかし、「ていただく」も尊敬語も伴わない普通の形では、(22)のように指示の機能を果たすことができる場合がある。(22)は相手の行為を指示するというよりは、相手を特定しない一般的な説明、あるいは、添乗員が自分自身も集合すべきメンバーの一員ととらえているというニュアンスが出て、丁寧さは低くなるが、同じ場面で指示としての機能を持つ。

(22) 明日の朝は、8時にロビーに集合します。

(cf.(17)(20))

これに対し、尊敬語だけの形式(20)が、指示の機能を持たないという事実は興味深い。これは、「します。」「する(こと)。」などの形式は、未来の事態を予測するということから、その事態の実現を期待し促すことに通じ、それはさらに命令の意味へとつながるため、尊敬語を使うと、尊敬語を使うべき相手に対して事態の実現を要求する、つまり命令するという不遜な事態となってしまうためだと考えられる。¹⁰

次に、依頼表現の代表的な形式として定着している「てい

¹⁰ 長谷川信子先生のコメントによる。

ただく」の可能形「ていただける」による依頼文(23)も、相手に対する働きかけがあり、「使役型ていただく」の一種といえる。

(23) (店で、客が自分の探している商品があるかどうか店員に聞いたときの店員の答え) 在庫を見てまいりますので、少々お待ちいただけますでしょうか。

これも、尊敬語だけの形式(24)では、依頼表現としては使われない。

(24) # 在庫を見てまいりますので、少々お待ちになれますでしょうか。(cf. (23))

次は、連続的な動作(25)や選択的な動作(26)について、指示や説明をする際に、文中で「使役型ていただく」を使う例である。

(25) (スポーツジムで、インストラクターが体操の指示をする) まず両手をまっすぐ上に伸ばしていただいて、それからゆっくりと前におろします。¹¹

(26) (駅ホームの張り紙) 団体のお客様、お体の不自由なお客様で、乗り降りに時間が必要な場合は駅係員に申し付けいただくか、インターホンを通じてお知らせください。

これらは、尊敬語だけの形式にすると、上で見てきた文末の

¹¹ 山田(2004)は、「てもらう」の「(道で)そこを右にまがってもらってまっすぐ行ってもらうと駅に出ますよ」の例について、「与益者が特定されず丁寧語化していると思われる」(p.74)と述べている。また、この用法には地域差があるとして「大阪製作の料理番組では概して～テモローテの形式を用いて料理手順を指示することが多い」(p.74脚注)としている。確かに、共通語においては、この用法は「ていただく」についてはよく聞かれるが、「てもらう」の使用は「ていただく」ほどは多くないと思われる。

例よりは良いかもしれないが、少なくとも「ていただく」を伴う文と比べると指示文としては不自然である。

(27) ?まず両手をまっすぐ上に伸ばされて、それからゆっくりと前におろします。(cf. (25))

(28) ?団体のお客様、お体の不自由なお客様で、乗り降りに時間が必要な場合は駅係員にお申し付けになるか、インターホンを通じてお知らせください。(cf. (26))

また、この例に似ているが、文が完結しない言い差しの形の依頼や指示もよく聞かれ、(29)(30)のように、一つ一つの動作を確認しながら指示する場合が多い。

(29) (健康診断の際のエックス線技師の指示)
右手でバーを持っていて、左手は機械の後ろにまわして……、(はい、結構です。)

(30) (パソコンの不具合を相談するために、客がメーカーのカスタマーセンターに電話したときのオペレーターの指示。客はオペレーターの指示を受けながら、パソコンを操作する)
では次に、「コントロールパネル」の中から「プログラムの追加と削除」というのを選んでいただきまして……、(そうしますと、その中に×××というのがありますでしょうか。)

これらを尊敬語だけの形式に変えてみると、指示としては不自然である。

- (31) ?右手でバーをお持ちになって、左手は機械の後ろにおまわしになって・・・、(はい、結構です。)

(cf. (29))

- (32) ?では次に、「コントロールパネル」の中から「プログラムの追加と削除」というのをお選びになって・・・、(そうしますと、その中に×××というのがありますでしょうか?) (cf. (30))

以上の例は、依頼や指示など、働きかけを行う例であるが、これ以外に、すでに依頼や指示をしたことの結果を表す(33)のような例も、相手に対する働きかけがあったという点で「使役型ていただく」の一種だと考えられる。

- (33) (テレビのニュース番組で司会者がコメンテーターを紹介する)
今日は、スタジオには、ジャーナリストの××さんにお越しいただいております。

これを尊敬語だけの形式にすると(34)のようになり、出演依頼をしたのではなく、ゲストが自らスタジオに来たようなニュアンスになってしまう。¹²

- (34) #今日は、スタジオには、ジャーナリストの××さんがお越しになっています。いらっしゃっています。

(cf. (33))

次の(35)(36)の例は、テレビやラジオの番組において、内容の説明のためによく聞かれる表現である。これらは直接的な

¹² 実際に、テレビ番組で、自分が出演する映画等の宣伝に来たゲストに対しては、司会者は「××さんがいらっしゃっています」などのように「ていただく」を用いずに紹介することが多い。

依頼や指示とは違い、視聴者が自らの意志で番組を視聴するものだが、話者（放送局＝売り手）が相手（視聴者＝客）に対し、その時間にその視聴内容を提供するという働きかけの結果として相手がそれを視聴すると考えると、これも「使役型ていただく」の一例と考えられる。

(35) (ラジオで、音楽が一曲終わったあとのアナウンサーの言葉) バッハの「小フーガ ト短調」をお聞きいただきました。

(36) (テレビの相撲中継でのアナウンサーの言葉)
ただいま、画面では、今日の十両の結果をご覧いただいております。次は、幕内の取り組みをご覧いただきます。

これらを尊敬語だけの形式にすると(37)(38)になり、番組内容の説明としての機能は持たない。

(37) # バッハの「小フーガ ト短調」をお聞きになりました。 (cf. (35))

(38) # ただいま、画面では、今日の十両の取り組みの結果をご覧になっています。次は、幕内の結果をご覧になります。

以上「使役型ていただく」の例を見てきた。「使役型ていただく」は、同じ場面においては尊敬語だけの形式には置き換えられないか、またはかなり不自然になる。つまり、尊敬語だけの形式は相手に対する働きかけを表す使役的な機能を表すことができないといえる。これは、前節で見た「受動型ていただく」が、同じ場面において尊敬語だけの形式に置き換えられたのとは対照的である。

次に「使役型ていただく」の恩恵性の有無について考察す

る。益岡（2001）は、「使役型てもらう」構文は使役構文に対して、主として恩恵性の有無ではなく強制性の有無において対立しており、「使役型てもらう」には必ずしも恩恵性がないとしている。本節で見てきた「使役型ていただく」の例を確認してみると、ほとんどの例においては、相手（客）の行為により話者（売り手）が恩恵を受ける例と言える。つまり、(17)「明日の朝は、8時にロビーに集合していただきます。」では客が時間通りに集合することで、(18)「ペットをお連れのお客様にはご入店をご遠慮いただいております」ではペットを連れた客が入店しないことで、(23)「在庫を見てまいりますので、少々お待ちいただけますでしょうか」では客が待つことで、(33)「今日は、スタジオには、ジャーナリストの××さんにお越しいただいております」ではスタジオにゲストが来たことで、(35)「バッハの「小フーガ ト短調」をお聞きいただきました」と(36)「ただいま、画面では、今日の十両の結果をご覧いただいております。次は、幕内の取り組みをご覧いただきます」では視聴者が放送を視聴したことで、話者（売り手）が恩恵を受けている例と言える。しかし、一方で(26)「団体のお客様、お体の不自由なお客様で、乗り降りに時間が必要な場合は駅係員に申し付けいただくか、インターホンを通じてお知らせください」の電車のドアの開閉を遅くするよう言うなどのように、どちらかという相手（客）の方が恩恵を受けると言える場合もあるし、(25)「まず両手をまっすぐ上に伸ばしていただいて、それからゆっくりと前におろします」の体操の指示や(29)「右手でバーを持ったいただいて、左手は機械の後ろにまわしていただいて・・・」の健康診断の動作の指示や、(30)「では次に、『コントロールパネル』の中から『プログラムの追加と削除』というのを選んでいただきまして・・・」のパソコンの操作の指示のように、どちらが恩恵を受けるとも言えない場合もある。この点は、

「受動型ていただく」が、恩恵性がある場合に限り使えたのとは対照的である。

以上、本節では「使役型ていただく」について考察した。相手に対する働きかけのある、「使役型ていただく」は、尊敬語だけの形式には置き換えられず、また、相手の行為が話者にとって必ずしも恩恵的でない場合もあるということがわかった。接客場面においては、多くの「使役型ていただく」が使われているが、これは、立場上、売り手である話者が、客である相手に対して行為を強制することは不適切であり、依頼や指示、行動の説明など相手に対する行為の働きかけがある場合も、強制性を持たない「使役型ていただく」を使うことで相手の意志を尊重するような働きかけを表現しているものと考えられる。¹³

6. まとめと今後の課題

本稿では、「ていただく」を、相手から一方的に動作を受ける「受動型ていただく」と相手に対する働きかけが認められる「使役型ていただく」の二種類に分類し、それぞれについて考察した。「受動型ていただく」については、相手の行為が話者にとって恩恵的である場合に限り使用でき、また尊敬

¹³ 「受動型ていただく」と「使役型ていただく」の両方の性質を持ち、中間に位置づけられるような「ていただく」がある。道案内の「こちらの通路をまっすぐ行っていただと、右側にございます」などや、機械の操作説明の「ボタンを押していただくと、水が出ます」などにおいては、文全体では単なる説明であり、直接的な働きかけはない点では「受動型ていただく」と言えるが、「ていただく」の節では行為を働きかけているという点で「使役型ていただく」に近い。（つまり、「トイレに行くためには、そちらの道をまっすぐ行ってください」という働きかけという解釈ができる）。また、「まっすぐ行く」「ボタンを押す」など行為そのものに恩恵性がなくても「ていただく」を使う点においても「使役型ていただく」に近い。ただし、尊敬語だけの形に置き換えることができる点を見ると（「こちらの通路をまっすぐいらっしゃると、右側にございます」「ボタンを押されると、水が出ます」）、典型的な「使役型ていただく」に比べて使役性は低いと言える。このタイプの文は、量的調査はしていないが、実際には、尊敬語だけの形式よりも「ていただく」を伴う形式がかなり多く使われている。これは、前節で見た、「ていただく」と尊敬語だけの形式のどちらも使用可能な場合は「ていただく」の方がよく使われるという点と一致している。

語だけの形式に置き換えることが可能である。一方、「使役型
ていただく」は、尊敬語だけの形式には置き換えられず、相
手の行為が話者にとって恩恵的でない場合にも使われる。

以上の結果から、「てもらう」の謙譲語である「ていただく」
は、「てもらう」と同様に相手に対する働きかけの有無によっ
て二分類できるだけでなく、その意味上の分類が、尊敬語と
の互換性の有無という性質の違いとして表れることがわかつ
た。また、「ていただく」は、それ自身が謙譲語でありながら、
尊敬語と共通の機能を果たすことができる場合があるという
ことがわかった。

「てもらう」と「ていただく」は共に、授受表現として恩
恵のやりとりを表すという対人的機能と、ヴォイスとして相
手の行為を表すという統語的機能を持つ。これに加えて、「て
いただく」は、謙譲語として相手と自分の立場を上下に関係
づけるという機能も併せ持っていることから、相手の行為を
上位に位置づけて表現する、尊敬語との共通性を持ち得るも
のと考えられる。

今回の考察のきっかけは、接客場面など敬語が多く使われ
る場面において、「ていただく」の出現が非常に多いように思
われ、「ていただく」がどのように使われているのか気にかか
ったことであった。「ていただく」は「てもらう」の謙譲語で
はあるが、「ていただく」を直接の考察対象とすることで、「て
もらう」の待遇的バリエーションとして見ているだけでは見
えない、あるいは見えにくい性質がある程度明らかになった。
今回は、「てもらう」は考察の対象としなかったため、「てい
ただく」の性質として述べたことが、「てもらう」が本来持つ
ている、つまり「てもらう」と共通の性質なのか、それとも
「ていただく」特有のあるいは特有に近い性質なのかにつ
いては扱えなかった。「てもらう」と「ていただく」の異同につ
いて明らかにすることは今後の課題としたい。

最後に、本稿で考察したことを、対人上の配慮に関する語用論的な観点から少し考えてみたい。橋元(2001)は、Leech(1983)の「丁寧さの原理(Politeness Principle)」とその一部である「気配りの原則(Tact Maxim)」(「他者に対する負担を最小限にせよ、他者に対する利益を最大限にせよ」という原則)に関して、日本語における「気配りの原則」の代替原則として「恩義強調の原則」(「相手が施す恩恵もしくは依頼者に生じる義理を最大限言明せよ」という原則を提案している(p.49)。この原則の観点からは、日本語の授受表現は、他者に対する負担を最小限にしたり、他者に対する利益を最大限にしたりする「気配りの原則」を実現する役割を担っていると見える。さらに、本稿において、依頼や指示など相手に対して使役的に行為を働きかける場合、つまり相手への負担が大きいと言える場合には、尊敬語だけの形式が使えずに相手から恩恵を受けること表す形式である「ていただく」を用いることを求められることが明らかになった。また、計量的には未調査だが、「ていただく」を伴う形式と尊敬語だけの形式の両方が使用可能な場面においては「ていただく」を伴う形式の使用の方が多い傾向があると思えることも、橋元(2001)の主張するような、日本語においては授受表現が「気配りの原則」の実現に重要な役割を果たしているということとの関連において考えることで説明がつく。なお、相手への恩義を言明するということは、Brown and Levinson(1987)によっても「丁寧さ」(Politeness)の原理に基づく人間関係維持のための普遍的なストラテジーの一つとして挙げられており、本稿で扱った「ていただく」を含め、日本語の授受表現の現象はそうした普遍的な語用ストラテジーの観点から考察できると思われる。

日本語において、敬語と授受表現は、互いに関連しあいながら対人上の配慮に関する役割を担っているが、この両者の

重なりや使い分けなどについては、まだ記述的一般化も含め明らかになっていないことが多いと思われる。また、「させていただく」の多用が進み、従来はいわゆる謙譲語（「いたす」等）で表されていた領域にまでその使用が広がっている（（菊池 1997）等）など、敬語と授受表現の分担領域は変化しつつある。¹⁴本稿の発展として、今後はこうした表現の使用状況の実態調査も行いながら、ヴォイスを中心とした統語的な観点と、対人上の配慮に関する語用論的な観点の両面から、「ていただく」をはじめとした各授受表現の機能、特にその敬語との関わりを明らかにしていきたいと思う。

引用文献

- 大江三郎. 1975. 『日英語の比較研究』南雲堂.
- 奥津敬一郎・徐昌華. 1982. 「「～てもらおう」とそれに対応する中国語表現—“請”を中心に—」『日本語教育』46.
- 金久保紀子. 1993. 「待遇表現としての授受表現」『日本文化研究』4:15-26. 筑波大学.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵. 1998. 『敬語表現』大修館書店.
- 川村よし子. 1991. 「日本人の言語行動の特性」『日本語学』10-5:51-60. 明治書院.
- 菊地康人. 1997. 「変わりゆく「させていただく」」『言語』26-6:40-47. 大修館書店.
- 久野暉. 1978. 『談話の文法』大修館書店.
- 熊井浩子. 1991. 「敬語研究の視点—包括的な待遇表現理論の構築を目指して」『国文学 解釈と教材の研究』46-2:89-95. 学灯社.

¹⁴最近の、尊敬語の不使用の傾向、特に「～になる」の部分を省略する傾向と、「ていただく」の多用化との関連も検討課題である（長谷川信子先生のコメントによる）

- 高見健一. 2000. 「被害受身文と「～にVしてもらおう」構文」『日本語学』29-5. 大修館書店.
- 高見健一・加藤鉦三 (2003) 「受益表現の新展開」『言語』32-1~32-6. 大修館書店.
- 仁田義雄. 1991. 「ヴォイス的表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- 橋元良明. 2001. 「授受表現の語用論」『言語』30-5:46-51. 大修館書店.
- 堀口純子. 1987. 「「～テクレル」「～テモラウ」の互換性とモード的意味」『日本語学』6-4.59-72. 明治書院.
- 益岡隆志. 2001. 「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30-5:26-32. 大修館書店.
- 宮地裕. 1965. 「敬語の解釈—主としていわゆる「謙譲語」とその周辺—」『ことばの研究 第2集』秀英出版.
- 宮地裕. 1985. 「待遇表現」『言語行動と日本語教育』凡人社.
- 守屋三千代. 2002. 「日本語の授受動詞と受益性～対照的な観点から～」『日本語日本文学』12:1-22 創価大学日本語日本文学会.
- 山田敏弘. 2004. 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらおう」の文法—』明治書院.
- 山本裕子. 2003. 「授受補助動詞の対人的機能について」『名古屋女子大学紀要』49:269-283.
- Brown, P. and S.C. Levinson. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge University Press.
- Leech, J. N. 1983. *Principles of Pragmatics*, Longman. (池上・河上訳『語用論』紀伊国屋書店)
- Masuoka, Takashi. 1981. 'Semantics of the Benefactive Constructions in Japanese.' in *Descriptive and Applied Linguistics Vol. XIV*, ICU.

261-0014

千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

神田外語大学

言語科学研究センター/留学生別科

uehara@kanda.kuis.ac.jp